

# 『新しい学習評価への取組み』(3)

## —学習評価の工夫改善—

全国中学校地理教育研究会名誉会長（元教育課程審議会委員）

佐野金吾

### 1 学習評価への取組み

若い先生方からテストの作り方についての質問をよく受けますが、その内容は、“何を”、“どのように”など評価内容や評価方法に関するものが多いようです。学習評価については多くの先生方は中間テストや期末テストなどの定期考査のペーパーテストを念頭に置いているようですが、『中学校 社会科のしおり』の1・2学期号で既に2回にわたって解説しましたように、学習評価はテストをして成績をつけることだけを目標とはしていません。

学習評価は、生徒一人一人に進歩の状況や教科・分野の目標の実現状況を的確に把握し学習指導の改善に生かしたり生徒が学習指導要領に示す内容が身に付いているどうかを見極めたりすることが重要なのです。つまり社会科の学習を学ぶことによって生徒が身に付けなければならない“学力とは何か”、その学力を身に付けるためには“どのような学習活動をし”、学習したことを“どのように評価するのか”、について評価者である教師が明確な態度を身に付けていなければ、適切な学習評価とはなりません。2学期号では、このことに関して“目標と指導と評価の一体化”の大切さとして述べました。学習評価への取組みとして必要なことは学習指導要領で示される各分野の大項目、中項目の目標、学習内容、学習活動等に対応した評価規準の設定と評価の観点に対応した評価内容・方法の工夫です。

これまでに多くの教師が実施してきたペーパーテストは評価方法として有効ですが「観点別学習

状況の評価」の4観点の全てを評価することは困難であることを改めて認識しておきましょう。

評価方法としては、大項目や中項目の目標、学習活動の特質、評価規準、評価の場面などに対応してペーパーテスト、ワークシート、レポートや作品、生徒との対話、質問紙など、多様な方法が考えられます。学習場面や学習内容の一定の区切りに対応し、生徒の学習状況を的確にとらえる方法を適宜選択して実施する工夫が必要です。

### 2 学習活動と学習評価の実践

学習評価は評価の妥当性とともに入学者や保護者から信頼の得られることが重要ですが、そのためには各分野の目標だけでなく大項目、中項目レベルの学習指導のねらいを明確にし、目標が実現されたと判断できる学習状況を具体的に想定した評価規準とA・B・Cと判定する際の判定基準の設定が必要です。

評価規準は大項目や中項目の目標・内容を分析することによって設定できますが、その掘りどころとして『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 社会】平成23年11月』（文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター 2012 教育出版）があります（以下「参考資料」）。

担当者一人で評価規準や判定基準を作成することは大変ですから、この「参考資料」をぜひとも活用して下さい。「参考資料」には評価規準に盛り込むべき事項と評価規準の設定例が記載されています。以下、この「参考資料」を活用し、帝国書院『社会科 中学生の地理』（以下、教科書）を

使った授業を想定した学習評価への取組みを紹介しますが紙面の都合で一部のみを扱います。

### (1) 第1部「2章 世界各地の人々の生活と環境」 (教科書p.16～41)

学習指導要領では、この章の目標は「世界各地における人々の生活の様子とその変容について自然及び社会的条件と関連付けて考察させ、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させる。」とあります。教科書は、この目標を実現するために世界各地の人々の生活の様子をそれぞれの地域の位置や地形、気候などの自然環境と社会的背景とのかわりからとらえる構成としています。

#### 【学習活動】への取組み

教科書では地理の学習対象とする地理的事象を文章や写真、図版、読み物資料、地図、統計資料などによって表現しています。特にこの章では多くの写真を扱っていますので、それぞれ地域の地域的特色を写真から読み取る学習を重視しました。まず、p.21の“写真の読み取り方”によって教師がきちんと指導し、生徒が“写真を読む技能”を確実に習得することが大切です。例えばp.21を実物投影機で大きく写し、“注目するポイントを知ろう”に基づいて写真から地理的事象を読み取る技能を徹底して指導し、“写真を読み取る”技能を確実に習得させます。この技能の習得がこの章の目標を実現するためのキーポイントとなりますので学習活動や学習形態をいろいろと工夫してみましょう。

まず地理の学習で“写真を読み取る技能”として重要なことは、その写真の場所（位置）の確認と写真から読み取れる様々な事象を自然的条件、社会的条件とのかかわりから考察することです。なお、教科書p.18、p.26、p.28、p.30の各①の景観写真からは、地形、集落、農牧業などの地理的事象を読み取りますが、事象相互の関連に気付かせ地域的特色として読み取ることが重要です。

生徒が主体的に写真や地図から地理的事象を考察する学習を通して世界各地の人々の生活と環境の多様性、それぞれの地域の地域的特色を理解で

きるようになれば、この章の目標を実現したことになります。

次に、習得した“写真を読み取る技能”を活用して1節から7節までの写真から「暑い地域」、「寒い地域」など、それぞれの地域の地域的特色を生徒が主体的に読み取る学習、考察する学習となります。生徒各自で写真の位置を地図帳で確認し、自ら描いた世界の略地図に記入していきます。地図帳で確認したり略地図に書き入れたりする**学習活動を習慣化**することによって地理的な技能は高まり、地理の学習への関心・意欲・態度を培うことができます。なお教師としては、教科書の本文や他の文献資料などによって世界各地の人々の生活の多様性、変容しつつある背景を社会的条件と関連付けて考察することの重要性に気づかせる指導が重要です。

写真から読み取ったこと、理解したことはノートやワークシートにまとめ、さらにまとめたことを発表させます。ノートに書き入れたり、それを発表したりする**表現活動**は、どのような学力が身に付いたのか、生徒自身に気付かせることにもなります。生徒自身が自ら身に付けた学力を自覚できる（＝自己評価）学習活動は学習評価の改善につながります。

適切な学習評価を行うためには、目標を実現できる学習内容とそれに対応した学習活動・学習形態の工夫が重要です。

#### 【学習評価】への取組み

この章では、写真から地理的事象を生徒が読み取り、読み取ったことを話しあい、理解したことを確認する学習活動を行いました。このような授業を展開すれば、「観点別学習状況の評価」の4観点のうち「社会的事象への関心・意欲・態度」の観点を除いた3観点についての評価は可能です。

まず、この章の目標を実現するために授業は“写真の読み取り”に重点を置いていますので「資料活用の技能」の評価規準は、「教科書の写真を基に世界各地の人々の生活と環境の多様性について読み取り、理解したことをまとめることができ

る。」としました。評価規準とは、教師にとっては授業で達成すべき目標・内容であり、生徒にとっては頑張れば身に付けられる資質・能力を示す目安と言うべきものです。

評価方法は、学習活動の観察やノート、ワークシートの記入状況の点検によって行いますが、「おおむね満足できる」状況と判断できる「B」の判定基準は、「各地域の写真から地域的特色を読み取る上で必要とする事象を複数取りあげ、考察したことを分かりやすく表現している。」としました。

なお「社会的な思考・判断・表現」、「社会的事象についての知識・理解」の評価規準は、「資料活用の技能」の評価規準を基に「参考資料」を活用して、この章の目標や学習内容、学習活動に対応して設定することになります。「社会的事象への関心・意欲・態度」については、この章だけの学習活動では適切に評価することは困難ですが、生徒の学習状況で気のついたことはメモしておきましょう。「関心・意欲・態度」の評価は、ある程度長い区切りの中、例えば大項目単位などに応じて適切な頻度で「おおむね満足できる」状況にあるかどうかを評価することになります。

## (2) 第2部 「3章 日本の諸地域」

「5節 関東地方～人口や都市の視点を中心にして～」(教科書p.220～233)

### 【学習活動】

学習指導要領の改訂に当たって地理的分野の目標の見直しとともに学習内容として動態地誌的な学習による国土認識の充実が取り上げられ、大項目「(2) 日本の様々な地域」に中項目「ウ 日本の諸地域」が新たに設けられました。この中項目の目標は「日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域について、以下の(ア)から(キ)で示した考察の仕方を基にして、地域的特色をとらえさせる。」とあります。

この中項目の学習では地域的特色をとらえる視点(ア)～(キ)を中核とした考察の仕方によって特定の地域を多面的・多角的にとらえる能力・

態度を身に付け、それぞれの地域の地域的特色をとらえ、国土認識を養うことを目標としています。

「5節 関東地方」では「(オ)人口や都市・村落を中核とした考察」を取り上げ6つの項によって構成しています。

まず「1) 関東地方はどのような地方だろうか」(p.220～221)では、地図を活用して位置と自然によって関東地方を概観し、「関東地方の特色を追究する課題」を示しています。この時間の学習では関東地方の位置や自然環境など関東地方の地域的特色をとらえる基礎となる学習を教科書と地図帳によって確実に指導し、基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、さらに関東地方の学習の課題を明らかにし、次時以降の学習体制を整えます。

「2) 多くの人口を引き寄せる東京」以降の学習は各項に掲げる課題にそった追究学習が展開されるよう学習内容・学習形態を工夫します。生徒が関東地方の地域的特色を「2) 多くの人口を引き寄せる東京」から「6) 大都市圏のまわりの地域のようにす」を考察のテーマとして教科書の図版や『中学校社会科地図』(以下、地図帳)(p.105～114)を活用して追究学習ができるよう学習環境を整えます。例えば「2)～6)」のテーマ別に5つの班分けをして追究学習を行います。E班は「6) 大都市圏のまわりの地域のようにす」をテーマとして教科書(p.230～231)の図版や地図帳(p.113の②、p.114の③～⑤)の各種資料から大都市圏と周辺地域とが密接に結びついている様子を考察し、大都市圏と周辺地域とのかかわりについてレポートやポスターとしてまとめます。他の班も同様の学習活動を行い、その結果を発表し合い、関東地方の地域的特色をクラス全員でまとめます。このような学習活動を行うことで“**目標と指導と評価の一体化**”が図られ、4観点の学習評価も可能となります。

### 【学習評価】①

「1) 関東地方はどのような地方だろうか」

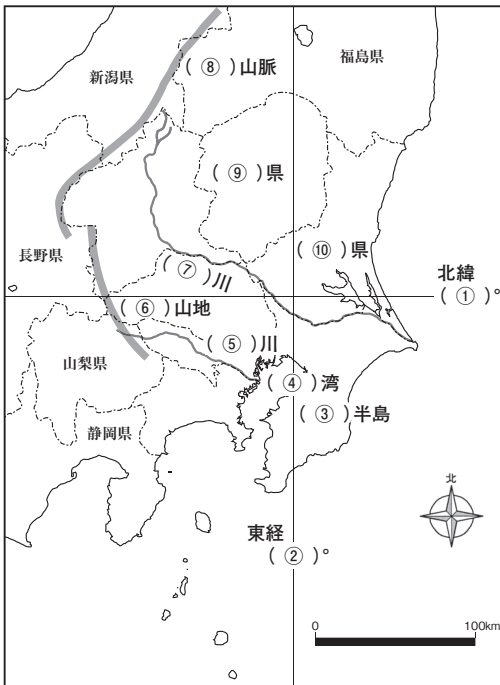
この項の学習のねらいは、関東地方の位置や自然など、関東地方の特色をとらえる上で必要とす

る基礎的な知識の習得にあります。そこで学習評価の観点は「社会的事象についての知識・理解」とします。この学習評価は、2)以降の追究学習に必要とする基礎的な知識の習得の状況を確認するために行います。指導の結果としての「知識・理解」を確認するテストですから「おおむね満足できる」状況として正解8割以上(=判定基準)で「B」とします。

テスト例

○次の白地図の①から⑩にあてはまる数字や地名を書き入れなさい。(10分)

〈判定基準=8以上書き入れれば評定は「B」〉



ペーパーテストによって生徒が自分の学習状況を知ること(自己評価)も必要ですのでテストに判定基準を示しました。

#### 【学習評価】②

関東地方の「2)～6)」は生徒が主体的に様々な資料によって学習課題を追究する学習をしていますので、学習活動の様子を観察したりノートやワークシートへの記入の状況を調べたりすることで4観点の評価は可能ですが、関東地方の全ての学習活動が終了した段階でのペーパーテストとし

て次のような案を考えてみました。ここでも「B」評価の判定基準を示すことがポイントです。

○関東地方の学習が終わりました。そこで家族の皆さんに関東地方の地域的特色を分かりやすく伝えるために、地図帳p.105～114の地図や図版を使って、地図や文章などによって関東地方の地域的特色をまとめ、分かりやすく表現してみましょう。(30分)

〈判定基準〉

○“人口と都市の視点を中心にして”、できるだけいろいろな事象を相互に関連付けて関東地方の地域的特色としてまとめ、表現していれば評定は「B」とします。

#### 【評価規準】

○社会的事象への関心・意欲・態度

「関東地方の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。」

○社会的な思考・判断・表現

「“人口や都市の視点を中心”にした考察の仕方を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。」

○資料活用能力

「関東地方の地域的特色に関する様々な資料と教科書や地図帳から有用な情報を適切に選択し、選択した情報を基に関東地方の地域的特色を読み取ったり図表などにまとめたりしている。」

○社会的事象についての知識・理解

「“人口と都市を中心”とした考察の仕方を基に関東地方の地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。」

学習評価は、授業で身に付けた学力を教師と生徒がともにとらえることが重要で、そのためには“目標と指導と評価の一体化”を図る授業を成り立たせる工夫が必要です。